

県立図書館通信

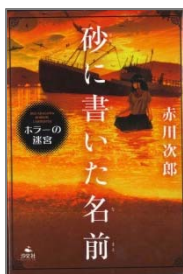
6月号
R元.6.3 発行



高校生の皆さんに向けて年に10回県立図書館通信を発行しています。いろいろな分野の本を紹介していきたいと思いますので、図書館をどんどん活用して読書を楽しんでください！

佐賀県立図書館の本の中から、高校生におすすめの本を紹介します。

新しく入った本



「砂に書いた名前」

赤川 次郎/著
汐文社/発行
青資料コード 120943642

夏休み、大学生の大木文二は、ガールフレンド朋子の父親から招待を受け、二人が暮らす島へやってきました。温かく迎えてくれたはずが、夜になると態度が急変し、不気味な足音も聞こえてきて……。赤川次郎のホラー作品。背筋がぞくぞくと寒くなるお話です。



「人見絹枝」

大野 益弘/文
しみち 櫻/絵
小峰書店/発行
資料コード 120944913

日本人女性として初めて、オリンピックに出場した人見絹枝さん。1928年アムステルダムオリンピック陸上競技で銀メダルを獲得しました。その活躍は、その後の女性アスリートへ大きな影響を与えました。新時代を切り開いた女性の物語です。



「ボンちゃんは82歳、元気だよ！」

石山 春平/著
社会評論社/発行
資料コード 116011396

著者石山春平さんは、小学6年生の時にハンセン病に罹患し、長い間、療養所生活を送りました。32歳で社会復帰することになり、その後もさまざまな困難が待ち受けます。国を相手に勝訴した後は、差別や偏見をなくすための活動をしています。著者の半生を綴っています。



「文豪たちのラブレター」

別冊宝島編集部/編
宝島社/発行
資料コード 115998239

「お菓子なら食べてしまいたいくらい。」ラブレターにこんな甘い言葉を書いたのは、文豪・芥川龍之介。他には、太宰治や石川啄木なども紹介されており、文豪たちがそれぞれの言葉で愛する人への想いを表現しています。



梅雨におすすめの本



梅雨といえば、雨、そして虫が出てくる時期でもあります。ということで、雨や虫が印象的な本を紹介します。



「雨の名前」高橋 順子/文 佐藤 秀明/写真 小学館/発行
資料コード 113298756

雨は雨でも、降り方・季節などによって「五月雨」「時雨」など日本ではいろいろな呼び名があります。本書では、422語の雨の名前を紹介しています。美しい雨の写真やエッセーが添えられ、雨の日を楽しく過ごすことができます



「ほたるの伝言」

小原 玲/著 教育出版/発行 資料コード 120608468

日本中のほたるを12年にわたり撮り続けている著者が、ほたるを通して自然環境の大切さを伝えてくれます。ほたるの美しい光に心が和む1冊です。



「小説言の葉の庭」

新海 誠/著 汐文社/発行 資料コード 120937701

雨の降る日、靴職人を目指す高校生の孝雄は、東屋でビールを片手に雨宿りする年上の女性・雪乃と出会いました。なぜか、ふたりが遭遇する日はいつも雨で……。2013年公開のアニメーション映画を監督自ら小説化した作品です。



「夏美のホテル」

森沢 明夫/著 角川書店/発行 資料コード 114899206

写真家を志す大学生相羽慎吾は、恋人夏美と出かけた山里で、昭和の香を漂わせる古びた店「たけ屋」を見つけます。その店を切り盛りする地蔵じいさんとヤスバあちゃん親子に出会い、夏休みをここで過ごすことにしました。切なくてあたたかい物語です。

■編集■ 佐賀県立図書館 企画課 図書館ネットワーク担当 (0952-24-2900)

◎この通信はHPにも掲載しています。蔵書検索もできます。

☞<https://www.tosyo-saga.jp/>

問い合わせはこちらまで